

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移り110円を回復する動きとなり、さらに108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感が出て、東京がゴールデンウィーク明けには114円台を回復するまで上昇しました。

その後、トランプ大統領のロシアゲート疑惑や、予想を下振れする米経済指標が続いたことでド

ドル/円相場のトレード戦略

ルの上値が重い状況となるものの下値も限定的で、6月に米国が利上げをするとともにバランスシート縮小に言及したこともあり、徐々にドル上昇への期待感が高まっています。

ただし、米景気減速懸念とトランプ政権の経済政策実行遅延の可能性がドルの上値を抑える状況に変化はなく、もう一段の上昇は米国の景気拡大を確認しながらゆっくりとしたものになると思われます。

■ 短期展望

先週は、週初 112 円台前半で始まったものの、米 ISM 製造業景況指数が 2014 年 8 月以来の高水準に上昇したことを受け、113 円台を回復する動きとなりました。

その後は、113 円を挟んで方向感のない動きが続いたものの、週後半に日銀が指値オペを実施したことや米雇用統計で非農業分門雇用者数が予想を大きく上回ったことなどを材料に 114 円 18 銭の高値をつけました。

今週も、ドルの底堅い動きは継続するものと思われませんが、一気に 115 円を突破する勢いは無いものと考えます。

先週末の米雇用統計は強い内容だったものの、一部の経済指標は予想を下回っており、強弱まちまちで、市場では FRB の利上げ継続方針に懐疑的な見方がまだ残されています。

今週は、イエレン FRB 議長議会証言が予定されており、その内容を見極めるまでは 113 円 50 銭から 115 円レンジでの動きを予想します。